

<蘭越町チセヌプリスキー場権利承継に係る確認事項：(有) JRTトレーディング>

平成28年7月 日

標記の件への返答

○事業計画について

- ・スキー場の開業は2017年1月の予定なのか。

A. チセヌプリスキー場の運営は、許認可(契約等)が揃い次第、2016年12月から行いたい。

- ・契約エリアのみの利用とし、それ以外の敷地利用の計画はないのか。将来的な計画も含めて記載すること。

A. 当面は、2コースのみの利用。しばらくは索道の代わりに雪上車を利用しスキー客を索道最終地点まで運搬するが、経営が安定・見通しが立った時点で索道のリニューアルを行う。その時点で過去の2コースを復活し合計4コースのコース設定を行いたい。

- ・索道設置費用の3億円について業者見積もりの額なのか、積算根拠及び調達方法は、
- A. 索道設置費用の金額は、数社に見積を依頼しており、例えば檜山スノーテック社は既存の設備を再利用したリフトで見積り額約 [REDACTED] 程度。また安全索道株式会社は全て設備新設の見積り額で約 [REDACTED] 程度となっております。その他、日本ケーブルやJFE等に依頼しており、上記の内容を踏まえ概算で3億円に設定致しました。また調達方法はチセヌプリスキー場での利益のほか、弊社のその他の部門からの調達・日本政策金融公庫等からの調達を想定しております。

- ・キャットスキーの運営計画(コースや安全対策の詳細・図面)

A. CAT スキーとの表記ですが、弊社の考え方としてはあくまで索道の代替手段として雪上車で利用客を運搬する計画です。主な商品は初心者レッスンとなりますので、コース内には5人のスクール生に対し1名のインストラクターが必ず同行し安全は確保されており、また雪上車の走行ルートはコースセパレートを行い、またコースの一番端を走行するので安全対策は問題ないと想定しております。別紙チセヌプリスキー場コースセパレート予定図参照

- ・索道施設の安全対策の手法については、絶対安全で確実に実行できるものであること。時期も併せて確認(内容・図面)

A. 現在、残置されている索道ケーブルをどのタイミングで撤去を行うか等、索道会社と協議を行っております。また索道施設の周辺は圧雪を行わずロープを張り利用客が物理的に近づけないような対策を行います。

- ・廃止申請を行った場合、再開時は、新設として運輸局に申請するのか。(新設の場合許認可に事務処理日数がかかるのでは。)

A. この点に関しましては、蘭越町担当者と、6月8日に札幌運輸局に出向き、今後の相談を行いました。結論としましては、索道再開時には新設手続きとなりますが、過去に存在していた索道と同じ施設面積・ルートであれば、事務処理日数はもちろん掛かりますが諸条件(安全統括管理者・索道管理者等の配置)を満たして入れば、

許認可が下りない事は無いとのこと。事業計画書でも索道の再開には時間的余裕を見ており、その間に運輸局や索道会社と協議を重ね、また弊社の人材育成を含めて万全の体制で事業を行って参ります。

○連帯保証人について

・連帯保証人が個人でも問題はないが、アンヌプリビレッジが保証人となり得ないのか。（個人の場合、残高証明（金融機関発行）及び所得証明（複数年分・市町村発行）で資力確認を行う。）

A. 上記証明を提出致しますので、個人での連帯保証をお願い致します。 急ぎ取り揃えますので、上記証明の詳細な提示をお願い致します。